

かつては世界の工場とも言われ、「モノづくり」のメッカであった工業立国日本も、昨今ではアジア諸国の台頭もあって、製造拠点の海外シフトが止まらず、貿易収支もいまだかつてない大幅な赤字を計上するような事態に陥っており、日本の製造業が元気を失い、業界に閉塞感が漂うまま、衰退の一途を辿ることが危惧されています。

講師の鈴木一義先生は永年の間、日本における「科学と技術」の過去から現代に至る発展過程を博物学的な実物資料の視点から、実証的な見地で調査・研究を行って来られました。研究の傍ら、先端技術とノウハウの結晶とも言える革新的新製品を顕彰する「ものづくり日本大賞」の選考委員などのほか、メディアでも活躍されています。

そこで先生に、歴史的背景を踏まえた「日本ならではのモノづくりの強さ」や「日本らしいモノづくりとは？」などについて、豊富な具体例を交えてお話し頂き、「モノづくり」企業の皆様に自信と夢を持って頂きたく、今回の講演会を企画いたしました。横浜・京浜地域の「ものづくり」関連の中企業の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

## 日本の‘モノづくり’の現状と今後 「モノづくり」から「MONODZUKURI」へ

日本のモノづくり。それは技術の高さとともに、世界一厳しいと言われる品質や納期に対応する、研究開発そして現場の知識や経験が一体となった日本独自の形を持つ。産業の空洞化を言われながらも、途切れることなく現場で生まれ、繋げてきた技能や経験が、これからの最先端のモノづくりに活かされる。



国立科学博物館 理工学研究部 科学技術史グループ

トピックス グループ長 **鈴木 一義** 氏

### プロフィール

新潟県生まれ。  
東京都立大学大学院工学研究科 材料力学専攻修士課程終了。  
日本NCR株式会社技術開発部勤務を経て、1987年より国立科学博物館理工学研究部、現在に至る。研究対象は、日本における科学及び技術の発展過程、特に江戸時代から現代にかけての科学、技術の発展状況を、博物館的な実物資料の視点から実証的な見地で調査、研究を行っている。  
「文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会ワーキンググループ」委員、「佐渡市金銀山遺跡調査世界遺産」委員、経済産業省「ロボット大賞」選考委員、「ものづくり日本大賞」選考委員、「ものづくり政策懇談会」委員、「トヨタ産業技術記念館」展示監修委員、「江戸東京博物館」展示監修委員、「日本航空協会」評議員、「石見銀山世界遺産」アドバイザー、「NPOものづくり生命文化機構」理事、その他博物館の構想委員や展示監修委員など。

- 1 下請けメーカー（BtoB）から、技術と工夫でブランド確立（BtoC）へ。
- 2 大手のやらない、やれないことをやる。
- 3 ガラパゴス、高品質、安く・・・で生き残るには！？

【日時】：平成25年1月29日（火） 15:00～17:30

【会場】：横浜企業経営支援財団 大会議室 横浜市中区太田町2-23  
(横浜メディアビジネスセンター7F)

【参加費】：2,000円/1名（当日会場で申し受けます）

主催（公財）横浜企業経営支援財団

講演後、交流会があります。  
(交流会費含む)

お問合せ先 経営支援部技術支援課 TEL:045-225-3733 FAX:045-225-3738  
<http://www.idec.or.jp> ★HPからも、お申し込みできます★

### ■ 第191回産学交流サロン 参加申込書 ■

氏名 (ふりがな) \_\_\_\_\_ 所属・役職名 \_\_\_\_\_  
 企業名 \_\_\_\_\_ 事業内容 \_\_\_\_\_  
 所在地〒 \_\_\_\_\_  
 TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_ E-Mail \_\_\_\_\_

横浜型地域貢献企業（□にチェックをつけてください）※認定企業は参加費が半額となります